

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. 74

September, 2023

関西大学ニュースレター

発行日：2023年(令和5年)9月22日
発行：関西大学 総合企画室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
www.kansai-u.ac.jp

■座談会
おわたししまさ・教育ジャーナリスト
長戸基・関西大学初等部 校長
松村湖生・関西大学中等部・高等部 校長

大学の併設校だからこそでできる学び



- 座談会 — 1
- 関西大学初等部・中等部・高等部の一貫教育 12年間の一貫教育ならではの教育プログラム — 7
- リーダーズ・ナウ — 9
在學生 — 法学部4年次生 天羽 咲希 さん
商学部3年次生 笹裏 健士朗 さん
- 研究最前線 / Research Front Line
「美」が人にもたらす影響を研究
「美しい」と思う心を解き明かし、
社会の幸福感を高めていく — 11
文学部 — 石津 智大 教授
・ Understanding the Experience of Beauty to Enhance
the Well-being of People
Faculty of Letters — Professor Tomohiro Ishizu
- リーダーズ・ナウ — 15
卒業生 — お笑い芸人 福田 麻貴 さん
- 関大ニュース — 19
宮城県と就職支援に関する協定を締結 ほか

大学の併設校 だからこそでできる学び



学ぶ楽しさ、考える力を引き出す関西大学初等部・中等部・高等部の一貫教育

おおたとしまさ • 教育ジャーナリスト

長戸 基 • 関西大学初等部 校長

松村 湖生 • 関西大学中等部・高等部 校長

2010年4月、高槻ミュージックキャンパスに関西大学初等部・中等部・高等部が開校し、初等教育から高等教育までの一貫教育体制が完成した。開校時に初等部1期生として3年次に編入学した子どもたちは、現在、大学4年次生。いよいよ社会に羽ばたいていこうとしている。そこで、今回は教育ジャーナリストのおおたとしまさを高槻ミュージックキャンパスにお招きし、初等部の長戸基校長、中等部・高等部の松村湖生校長との座談会を開催。開校時から追いかけてきた教育の現在地、大学の併設校ならではの可能性を語り合った。

◆同じ校舎で過ごす12年

おおた 実は、以前、取材でここにお邪魔したことがあります。下から見上げるとオフィスのような佇まいで、綺麗に整っていて、一般的な校舎のイメージとはずいぶん違いますね。

長戸 小中高が一つの校舎に入って、教員も児童・生徒も自由に行き来ができるともいい環境だと思っています。初等部は1階から5階。1学年2クラスで、クラスとクラスの間にオープンスペースがあって、そこで学年全体の活動もできます。ビルのような雰囲気ですが、息苦しさは感じません。

おおた 高層の校舎という条件下で、いろいろな工夫がされているんですね。

松村 私は開校準備の段階から委員として携わってきました。当時は、初等部から高等部までの教員が一つの部屋で仕事をし、意見を交わし、相互に関わりながら、新しい一貫教育を創り上げていくんだということを語り合いましたね。

おおた 本来は小学校から大学まで切れ目なく接続されている姿が理想なのですが、日本の教育行政は学校種が分断されているのが現状です。かつて、話題となった大学入試改革も、高大接続をどうするか、そこにある課題を突き崩すことがもともとの目的だったのですが、結局は内容が形骸化し、目的がはっきりしなくなってしまいました。小学校から大学までがスムーズに接続される本来の姿が、ここでは可能なのではないでしょうか。国レベルでは難しいことが、一つの学園という単位だからこそ実現できるのだと思います。

今の日本の教育は、横並びで均質であることを優先して設計されていると思います。それとは異なるかもしれないけれど、私学なら法人単位で、地域なら地域単位で、それぞれにきちんと理念があれば、横の均質性よりも、縦の一貫性とか合理性を優先してもいいのではないのでしょうか。一定レベル以上の教育をどこでも

できる、教育文化や資産がある日本社会ならば、それが実践できる状況は揃っていると考えています。

長戸 理念と言えば、関西大学は学是に「学の実化」を掲げています。学の実化とは「学理と実際の調和」、「国際的精神の涵養」、「外国語学習の必要」、「体育の奨励」を提唱したもので、幼稚園から大学まで一貫した理念です。

おおた その理念を常に社会に照らし合わせ、今に生かす行動をしていけば、関西大学は関西大学として常に変化していくことができるはず。けれども、今の日本では、これからの時代を見据えて学習指導要領を改訂しようと検討を重ねているうちに時代が変わってしまう、みたいなことを繰り返してきました。やはり、もっとスモールユニットで、現場が肌で感じている変化を、すぐに教室にフィードバックできるような形にしていけないといけません。そこには当然、トライアンドエラーのエラーも含まれてくるとは思います。でも、そうやって進化していくのが、教育の本来あるべき進化の姿。教育は生き物です。システムで変えていくのではなく、自然な適応力によって変わっていくやり方で、人間の身体が新陳代謝していくように、気づかないうちに変わっていきます。教育は本来、そうあるべきだろうというのが、私の基本的な考えです。

『大学付属校という選択』を書いたときは、高大接続改革、大学入試改革の雲行きが怪しくなってきた頃で、システムでガラッと全国一斉に教育を変えようというやり方自体が、教育のあるべき姿と相反した操作なのではと感じていました。そこで着目したのが大学の併設校や付属校でした。そこに、部分的ではあるけれど、高大接続改革や大学入試改革のめざす完成形があるんじゃないかと。これを全国展開していけばいいのではないかとという発想で、あの本を書きました。



おおたとしまさ著
「大学付属校という選択」
日経プレミアシリーズ

■座談会



おおたとしまさ
 ■教育ジャーナリスト。1973年東京都生まれ。東京外国語大学外国語学部中退、上智大学外国語学部卒業。株式会社リクルートを経て、2005年に独立。育児、教育、中学受験などに関して、幅広いメディアで寄稿、出演。講演活動も行う。心理カウンセラー、中学、高校の教員免許を持つ。私立小学校の教員経験もある。「大学付属校という選択 早慶MARCH関関同立」(日本経済新聞社)など著書多数。最近刊は「人生で大切なことは、ほぼほぼ子どもが教えてくれた。」(集英社文庫)。

松村 潤生—まつむら こお
 ■関西大学中等部・高等部校長。1975年大阪府生まれ。大阪教育大学卒業後、大阪教育大学教育学部附属池田中学校(現 大阪教育大学附属池田中学校)、茨木市の公立中学校を経て、2009年関西大学高槻ミューズキャンパスの開設準備委員として赴任。開校後、中等部1期生の学年主任を務める。SGH推進部主任、研究開発部主任、中等部教頭を歴任し、2023年4月から現職。

初等部と中・高等部が相互にもう一歩踏み込んで授業内容を理解した上で、具体のレベルで学んだことを今度は抽象のレベルで学ぶというふうにつながって実践しやすいのが、貴校のような一貫教育校だと思います。

(おおた)



◆成長を細やかに、長期的視点で見守る

松村 本校は中・高等部が一つの職員室で、一人の教員が中高両方の授業をすることは珍しいことではありません。部活動も中・高等部で一緒に取り組んでいます。その点では、中・高等部は一体感がありますが、だからこそ初等部との接続をより良くするにはという課題がずっとあります。



子どもが伸びるそのタイミングをとらえてサポートできるのが一貫教育の良いところの一つだと思えます。

(松村)

おおた 一つの組織で、限られた規模の中で実践していても、やはり難しさがあるってことですね。

松村 初等部と中・高等部との接続をよくするために、それぞれの教員が双方の授業を実際に見る機会をもっと増やしたいと考えています。初等中等教育12年間のどのタイミングで成長するかは、子ども一人ひとりで異なります。子どもが伸びるそのタイミングをとらえてサポートできるのが一貫教育の良いところの一つだと思えます。日ごろから、長戸先生ともより良いカリキュラムについて話し合っています。

おおた カリキュラムは大枠を設計しておけば、あとは現場の先生方が日常的な対話の中で相互の教育観を認知していくだけで、肌感覚で擦り合わせが進み、子どもたちの変化に合わせた対応も一貫してくるだろうと思います。先生同士がざくばらんに価値観をぶつけ合って、理想の教育論みたいな気恥ずかしい話題を素直に語り合えるようなこともここならばできます。それは他校ではまねができないことじゃないでしょうか。

◆相互の擦り合わせを積み重ねて

松村 初等部の授業を見学すると、「初等部の子どもたちはここまで学んでいるのか」と驚くこともあります。初等部で得た知識や学びを中・高等部でどのように昇華させるか。目の前にいる子どもたちの数年先を想像しながら、考えることができますね。

おおた 初等教育では目に見える具体的なことから考える学びをします。中等教育では全く同じことを抽象のレベル、つまり、リンゴの個数のような具体的な数ではなく、XやYのような文字式が出てきたり、水がH₂Oで表わされたり、実際に目に見えないものになっていくわけじゃないですか。具体のレベルで一回学

学すべき学習内容を学ばべき年齢は当然あって、学習指導要領はその点を考慮して合理的に設計されていますが、私たちは一貫教育校なので個々の状況に合わせたタイミングで柔軟に教育できると考えています。

(長戸)



長戸 基一ながと もとい
 ■関西大学初等部校長。1962年兵庫県生まれ。東京学芸大学卒業後、公立中学校在職中に兵庫教育大学院を修了。神戸大学発達科学部附属住吉小学校、公立中学校、兵庫教育大学附属小学校等を経て、2011年関西大学初等部に赴任。教務主任、教頭を歴任し、2019年から現職。

んだことを、抽象のレベルでもう一回学ぶ。ピアジェ[※]は具体的操作期と、形式的操作期という言い方をしていますが、まさにそれは初等教育と中等教育に対応しているのだと思います。

初等部と中・高等部が相互にもう一歩踏み込んで授業内容を理解した上で、具体のレベルで学んだことを今度は抽象のレベルで学ぶというふうにつながって実践しやすいのが、貴校のような一貫教育校だと思います。

松村 初等部は具体を、中・高等部で抽象を扱うとして、では、初等部で抽象的な概念を学んではいけないのかということ、そんなことはありません。私も長戸先生も理科の教員ですが、具体的、体験的なものを「見える理科」と呼んでいます。たとえば、初等部では「見える理科」が8割、2割ぐらいは「見えない理科」を入れてもいいのか。このさじ加減については議論になります。おおたさんがおっしゃるように、そこは肌感覚で擦り合わせていくのがよいかもしれないですね。

おおた そうそう、その積み重ねが大切だと思います。

※ジャン・ピアジェ(1896~1980年)……スイスの心理学者。子どもの認知の発達を「感覚運動期(0~2歳頃)」「前操作期(2~7歳頃)」「具体的操作期(7~11歳頃)」「形式的操作期(11歳頃以降)」の4段階に分類した「認知発達論」を提唱した。

■座談会

◆成長の段階に合わせた適切な学習内容を

おおた 小学校で時計の読み方を習うのは何年生ですか？

長戸 1年生ですね。

おおた 恐らく小学校入学前の子もだと、まだあまり時間という概念がありません。だから、形式的に読み方だけを習っても、体に染み込みにくいのです。中等教育においても、中学1、2年生のときの抽象度の理解力と、それ以降とは違うということは、既に発達心理学で明らかになっています。だから、先取り教育は子どもにとって単なる詰め込みになってしまいかねません。本当に彼らの身につくのか、血となり肉となるのかというと、必ずしもそうではないのです。

長戸 学ぶべき学習内容を学ぶべき年齢は当然あって、学習指導要領はその点を考慮して合理的に設計されていますが、私たちは一貫教育校なので個々の状況に合わせたタイミングで柔軟に教育できると考えています。

おおた 確かにそうですね、

松村 実は、私も中等部の授業で高校の学習内容を試行的に教えたことがあります。その時は、生徒の反応を見て、すぐにやめました。だけど、そのトライ自体が大切だと思っています。

おおた トライアンドエラーの中でそれぞれの先生が子どもにとって適切な年齢と学びを実感する。そういう実感は言葉にしなくても、実際に一緒にいる先生同士だからこそ共有できます。初等教育から中等教育へどのように移行していくのか。教育カリキュラムの迅速で細やかな調整も、児童・生徒と先生、先生同士の生身の人間のぶつかり合いがあるスモールユニットでしか実現

しないのではないかなと思います。

◆初等部・中等部・高等部に共通する「考える力」

長戸 スモールユニットとしては、初・中・高等部は特に思考力の育成に力を入れています。さまざまな学校で思考力の育成に取り組まれていると思いますが、初等部はこのような手法でこのような力をつけるということを明確に示している数少ない学校です。その具体的な手法が「ミューズ学習」。一言で言うと、思考をスキルととらえ、シンキングツールを使って考え方を具体的に教えています。シンキングツールは各教科で共通して使うであろうというものを6つ厳選し、子どもたちはそのシンキングツールを使うことで、考え方としての思考スキルを体験的に身につけていきます。この初等部で培った思考スキルを、中等部の「考える科」でさらに高め、高等部の「探究学習」につなげていきます。

松村 中等部の「考える科」では、ディスカッションやプレゼンテーションなどの基本スキルを習得します。例えば、折り紙の折り方を言葉だけで相手に伝えるという授業などもあります。どんな言葉を選べば相手に正確に伝わるか、とにかく文章力や表現力を鍛えていきます。「考える科」では豊富なコンテンツを用意し、そこで鍛えた力をもとに教科学習でも実践し、総合的な学習の時間で課題解決型のプロジェクトにつなげていきます。

高等部の「探究学習」は他校にはない特色と自負しています。自分で課題を見つけ、情報を収集し、比較し、構造化し、また評価して一つの結論を導き出します。そして、その集大成として1万字の研究論文にまとめます。



初等部ライブラリー（はてな館）

ミューズ学習：6つのシンキングツール

<p>比較する ベン図</p> <p>複数の事象の「相違点」や「共通点」を見つけ出すために使います。</p>	<p>分類する Xチャート</p> <p>物事をいくつかのまとまりにわけて整理するために使います。</p>
<p>つなげる コンセプトマップ</p> <p>ある事象と、ほかの事柄とのつながりを見つけるために使います。</p>	<p>多面的にみる ポーン図</p> <p>物事を複数の視点から見て情報をまとめるために使います。</p>
<p>組み立てる ピラミッドチャート</p> <p>複数の事象を根拠に、論理的に主張を構成するために使います。</p>	<p>評価する PMIシート</p> <p>観点を持ち、根拠に基づいて対象への意見を述べるために使います。</p>

おおた 6年間の「ミューズ学習」では、どのような状態になるのが理想だとお考えですか？

長戸 「ミューズ学習」で学んだ思考スキルを教科、総合、道徳といった学習場面だけでなく、日常生活でも活用できることが理想です。そのためには「ミューズ学習」で必要に応じて、適切なツールを選択して、考えをまとめ表現することを積み重ねることが大切です。

おおた 6つのシンキングツールを学ぶことによって、情報や思考の整理の仕方があると分かったら、子どもたちはもしかしたらこんなシンキングツールも作れるのではないかと自ら新しいツールを考えるようになるかもしれません。既存のものだけで考えさせるのではなく、そこから新しいものを創り出すような子どもを育てることも必要ではないかと考えます。

長戸 確かに子どもたちが新しいツールを創ることもありますが、

本校では、思考スキルを習得することが目的ではなく、それを教科等で活用することを大切にしています。また、「ミューズ学習」をベースとして、次の一步を踏み出すために、「自分の追究したいことを自由に追究する」ための手立として、全国に先駆けて、STEAM (Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics) 教育に取り組んでいます。

経済産業省の「STEAMライブラリー」では、本校の「STEAM化ごんぎつね」が紹介されています。これは、国語の教材として取り上げられている『ごんぎつね』をテキストに、理科や社会科の観点からもアプローチするもので、子どもたちがさまざまな視点で学びを深めていくことを期待したものです。

◆一貫教育は人の中に軸をつくる

松村 中・高等部は初等部との接続だけではなく、大学との接続にも、一層、力を入れていきます。初等部と同じように大学の教員とも肌感覚で教育観を共有し、初等教育と高等教育の間をスムーズに接続する中等教育のモデルとなるような学校にしたいですね。

おおた 私学の一貫教育というのはきっと、一人の人間の中で軸を作ることだと思うんです。うまく接続する、カリキュラムの無駄をなくすとかではなく、どんな教育観や価値観を持ってカリキュラムを策定し、運用していくか、そこに私学における一貫教育の意義があるのだと思います。



■関西大学初等部・中等部・高等部の一貫教育

12年間の一貫教育ならではの

教育プログラム

関西大学には3つの高等学校、3つの中学校、1つの小学校、1つの幼稚園が併設されています。そのうち、同一キャンパスで12年の初等中等教育を一貫して展開する関西大学初等部・中等部・高等部は、その特長を生かし、一人ひとりの成長段階を継続的に把握しながら、12年間の計画的・継続的なカリキュラムによる体系的な授業で、確かな学力と思考力に加え、国際理解力や豊かな人間性を育てています。

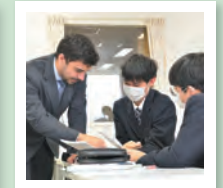


国際理解教育の充実

初等部ではモジュール学習の時間を活用し、1、2年次は毎朝15分間、楽しく英語に触れる機会を設け、英語の音声に慣れ親しんでいきます。3、4年次では週3時間、5、6年次では週4時間の授業を通して、英語でのやり取りだけではなく、段階的に読み書きの能力を身につけていき、6年次の海外研修旅行で実際に活用します。また、外国の人々と直接または間接的に交流することで、異文化理解、国際協力等に取り組みます。

中・高等部では、英語力を実践的に活用する場として、海外研修やターム(学期)留学、短期交換留学などのプログラムを用意。海外の学校との交流を通して、語学力の向上と多文化共生時代に必要な資質、能力、態度や技術の育成に取り組みます。高等部の探究学習でもグローバルな社会課題やビジネス課題に取り組むことにより、グローバルリーダーとして活躍できる人材の育成をめざしています。

▼高等部・夏期英語研修



▼初等部・オーストラリア研修



▼中等部・台湾短期交換留学



思考力の育成

初等部の特長のひとつとも言える「ミューズ学習」。考える力の育成に特化したもので、開校時から導入しています。1年次から6つの「思考スキル」を段階的に学び、自由に使いこなせるよう、繰り返して取り組むことで、教科学習や総合的な学習の時間に加え、日常生活にも活用しています。図書室(ライブラリー)のレイアウトも「ミューズ学習」に合わせ、辞書や新聞、百科事典等の使い方や「ミューズ学習」の学び方を知る「はてな館」、絵本や物語を中心とした「わくわく館」の構成になっています。また、授業には「STEAM」の視点を取り入れ、教科横断的な学びを展開し、児童の論理的、批判的思考力の涵養につとめています。

中等部では独自科目「考える科」を通して、考えることを科学し、幅広いテーマを扱いながら考えることを楽しみます。考える方法を「一つの視点で深く掘り下げる(垂直思考)」と「多面的な視点で発想を広げる(水平思考)」をとらえ、最終的には自分の存在を自己分析させる力(メタ認知能力)の獲得を目指します。

高等部では「プロジェクト科目」を設定し、「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」(文部科学省)*で指定を受けた取組をさらに充実させています。これにより、自ら課題を発見し、論理的な思考力や手法に加え、自身の興味関心により、真理を深めようとする態度を身につけ、大学進学後だけではなく、将来、必要となる問題解決能力を養います。

*2014～2018年度の5年間。現在はSGHネットワーク参加校として認定。



▲考える力を育てる初等部の「ミューズ学習」



▲理系 & 文系融合の人材育成のための「STEAM教育」



▲研究テーマに基づいて調査を行う中等部の奈良フィールドワーク



▲研究成果の集大成となる高等部の卒業研究発表

ICT機器の活用

初・中・高等部では開校時からICT機器を活用。先のコロナ禍でも遠隔授業にスムーズに移行することができました。

初等部では、コンピュータやタブレットを活用し、情報を整理・収集する力、批判的にみる力、創造力、表現力等を養う情報教育を進めており、Apple Distinguished School(2018～2021、2021～24)にも認定されています。

中・高等部では、可視化による理解の促進や観察・実験の結果の共有等のほか、録画から改善点を見出したり、協働学習に利用したり、学校生活の様々な場面で活用されています。また、発音矯正アプリや学習ログの分析など、生徒の理解状況や能力に合った学び(学習の個別化)を支援するために活用されています。



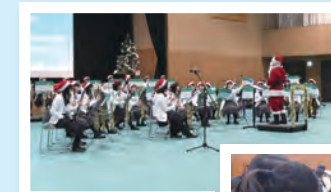
豊かな人間性の涵養

初等部では学年や学級の異なる児童たちが給食や縦割り活動、集団下校等で触れ合い、交流を図ることによって、相互に思いやり、人間関係をより深めています。また、2年次からの宿泊体験学習を通して、経験の幅を広げ、仲間づくりや異文化交流などに挑戦します。

中・高等部では、合同でクラブ活動に取り組むほか、生徒会や各種委員会活動、学校行事を生徒スタッフが自主的に運営することによって、リーダー性と自主性を涵養しています。



▲初等部の異学年交流「縦割り活動」



▲中等部・高等部吹奏楽部が初等部生に向けて演奏するクリスマスコンサート



百人一首大会で交流する初等部3・4年生と中等部1年生▶

LEADERS NOW!

初等部での「なぜ？」が今の学びの原点

一人ひとりの問題意識や行動力を大切にしてくれた環境

◎法学部4年次生
天羽 咲希さん



天羽 咲希—あもう さき

■2001年大阪府生まれ。2010年、関西大学初等部3年次に編入学。中等部、高等部を経て、2020年関西大学法学部入学。初等部入学式では代表宣誓、中・高等部卒業式では答辞を務めた。初等部での国際交流をきっかけに、インドの貧困や教育の問題に関心を持つ。現在は国際問題の中でも、特に貧困地域での衛生教育をテーマに卒業論文に取り組んでいる。



中等部



高等部

▲卒業式で答辞を述べる天羽さん



初等部 (写真・左)総合学習での発表 (写真・右)4年次「2分の1成人式」でのスピーチ



2010年、関西大学初等部の1期生として3年次に編入学した天羽さん。その後、中等部、高等部を経て、現在は関西大学法学部で学ぶ。初等部で感じた「なぜ？」が今の自身の学びの軸となり、自身を支える礎となった。

「振り返ると初等部での国際交流で感じた『なぜ？』が私の学びの原点ですね。当時、初等部との国際交流を目的に来日する予定だったインドの子どもたちが、突然、ビザの関係で入国できなくなったのだ。「理由を聞いて、現地の貧困を知り、じっとしていられなくなって……みんなで支援活動を始めたんです」。

フリーマーケットでの収益金や家にある未使用の文房具を、NGOを通して貧困地域の小学校へ届けた。そのことがきっかけで、現地の子どもたちとオンライン通話を通して交流を重ねたという。「私と同世代の子どもたちが、毎日の生活のままならない状況でも、『学びたい』という強い意志を持ち続けていることを知って、いろいろと考えさせられました」。自身も負けずに勉強して、将来はこの子どもたちもきちんと学べるような環境づくりに携わられたら……と幼いながらに決意した。

中・高等部でも、自ら関心や問題意識を持って学ぶ環境が揃っていたこともあり、さらに深く掘り下げて学び続けられたという天羽さん。高等部ではSGH[※]研究報告会のプロジェクトゼミでリーダーを務め、ポスターセッションでは『貧困地域の教育と雇用をつなげた人材育成』をテーマに発表もした。その結果、『個人研究優秀ポスター賞』『個人研究優秀論文賞』を受賞した。

関西大学法学部へ進学したのは、貧困や途上国について研究する上で、障壁となるのが国の制度や法律だと感じたから。現在、国際政治経済論のゼミナールに所属し、SDGsにも関連する衛生教育について研究を進めている。子どもたちに手洗いやうがい習慣を付ける方法など現地の実情に合わせた衛生教育の方法を中心に研究し、卒業論文に取り組んでいる。

来春から大手家電メーカーに就職するという天羽さん。就職先は「世界中の人や環境に優しい」会社にこだわった。「選考の過程で、同じテーマで10年以上研究を続けたことは予想以上に評価されました。関心と問題意識をもって研究を続けていたことが、知らないうちに自分の強みになっていたんです。進学してもずっと私を後押ししてくれた一貫校だからこそできた学びだったと思いますね」。

「私が就職する大手家電メーカーはインドにも拠点があります。機会があれば、いつかインドでも働いてみたいですね」。彼女がインドで活躍する日はそう遠くはないかもしれない。



▲カナダ研修旅行のホストファミリーと (写真右端が天羽さん)

“誇れる人生”のために

空手が教えてくれた自身の生き方

◎商学部3年次生
笹裏 健士朗さん



中等部

2010年、関西大学初等部の2期生として2年次に編入学した笹裏さん。クラスでは率先してリーダー役を担う傍ら、4歳から始めた空手は国内外の大会で次々に結果を残した。中等部進学後は学習にも懸命に取り組み、高等部では成績優秀者に選ばれた。まさに、「まだまだこれから」と新たな道へ踏み出す。

◀第11回JKJO全日本ジュニア空手道大会で優勝した笹裏さん

笹裏さんが空手を始めたのは、兄の影響だった。道場に通い始めてからの上達はめざましく、すぐに全国に名を知られる選手になった。中等部で水泳部に所属したのも空手のため。「空手に役立つしなやかな筋肉や高い心肺機能が、水泳で鍛えられると勧められたんです」。高等部では、海外の大会でも優勝するなど、笹裏さんの少年期は常に空手とともにあった。「ちなみに水泳でも、学年別大会でリレメンバーに選ばれたんですよ(笑)」

「母によると、関西大学初等部に行きたいと言いついたのは僕らしいです」。入学してすぐに英語の楽しさに触れ、オーストラリアへの修学旅行では運営委員長を務めた。「現地の学校との交流会で、英語で簡単なスピーチをした程度ですが」と謙虚な笹裏さん。中等部進学と同時に学習にも注力した。空手の練習時間を確保するためにも、毎日の授業に集中し、その場で理解できるように心がけた。高等部1年次にはフィリピンでの語学留学も経験。2年次にはこの体験をもとに「フィリピンの貧困問題」に関する論文を書いた。高等部卒業時には成績優秀者表彰を受け、「高校生新聞社賞」にも推薦された。

「全てが今の自分につながっています」。初・中・高等部での学校生活をそう振り返る。「グローバルな視点は初等部で養われ、論文の書き方は高等部で培われました」。そして、何よ



初等部

◀卒業式で先生や友人たちと一緒に
▼テーブルマナー講座での一コマ



笹裏 健士朗—ささうら けんしろう

■2002年兵庫県生まれ。2010年、関西大学初等部2年次に編入学。中等部、高等部を経て、2021年関西大学商学部入学。4歳から始めた空手は国内外の数々の大会で優勝を飾る。高等部では3年連続で成績優秀者。文武両道が評価され「高校生新聞社賞」(2020年度)も受賞した。

り大学進学と空手が両立できたことを喜ぶ。「実は、兄は北陽高校から、姉は第一高校から関西大学に進学した僕の先輩です」。

そんな笹裏さんがずっと続けてきた空手にいったん区切りをつけようと思ったのは、昨年の秋。最後の舞台に選んだのは、何度も優勝を目指して挑んだ1年で最も大きな全日本大会。前回は前回と3位。「優勝しか考えていませんでした」。笹裏さんがすべてをかけて臨んだ5月の大会は、これまでの自身の集大成でもあった。試合中に負ったケガをものともせず、勝ち進んだ準決勝では大会連覇中の王者を倒した。決勝に進むも、結果は準優勝。「悔しかった。でも、しっかり受け止めて今後の糧にしていきます」。目標に向かって、心技体を極限まで磨いた自分に満足できた。選手としては引退するが、今後も後進の指導で関わっていくつもりだ。

笹裏さんが次に目指すのは海外留学。「いつかは長期留学したいなと考えていましたが、空手を最優先してしまっていたのでどこかで諦めていました」。目下、来年のアメリカ留学に向けて準備中だ。「英語力を身に付けて、アメリカでビジネスを学び、さらに視野を広げたいです」。

笹裏さんが求めるのは、いつも空手の師が言う「誇れる人生」。空手でも学業でも人に誇れるか、自分に誇れるかどうかが納得と満足の基本だった。「空手ではそれが少しは達成できました。今後はこれからの仕事や生き方に求めていきたいです」。アメリカ留学を経て、一段と成長する笹裏さんの今後の活躍が期待される。



中等部



高等部

(写真・上)カナダ研修旅行で現地の学生と交流 (写真・下)フィリピン語学留学でできた友人と

※SGH=スーパーグローバルハイスクール

■研究最前線

「美」が人にもたらす影響を研究 • Study of How “Beauty” Affects People

Beauty and the Brain



「美しい」と思う心を解き明かし、 社会の幸福感を高めていく

人間の“牙城”を探求する「神経美学」の面白さ

Understanding the Experience of Beauty to Enhance the Well-being of People

The Wonder of Neuroaesthetics, a Study That Explores the Essence of What Makes Us Human

●文学部 石津 智大 教授
• Faculty of Letters — Professor *Tomohiro Ishizu*

「美しい」と感じる感覚は、人それぞれ。極めて主観的な感性だ。しかし、人は「美しさ」に客観性を求めてきた。「プラトンもアリストテレスも、「美」に共通項を見いだそうとしていました」。先人が挑んできた「美」の追究に、一つの指針を与えるのが「神経美学」だ。文学部の石津智大教授は、日本における同学問の第一人者。多彩な研究法で「美」を解明しようとしている。

What people find “beautiful” depends on the individual. It’s a highly subjective feeling. However, people have examined whether the perception of what is beautiful is objective. “Both Plato and Aristotle tried to find something in common regarding beauty.” Neuroaesthetics provides a guiding light in an age-old pursuit that may help us get to the bottom of beauty. Tomohiro Ishizu, a professor at the Faculty of Letters, is a pioneer in the study of neuroaesthetics in Japan. He is trying to shed light on the concept of “beauty” using a variety of research methods.



▲石津教授の著書
Books authored by Professor Ishizu

は何か、という問いに対し、神経美学は、脳と認知から答えようとしているのです。

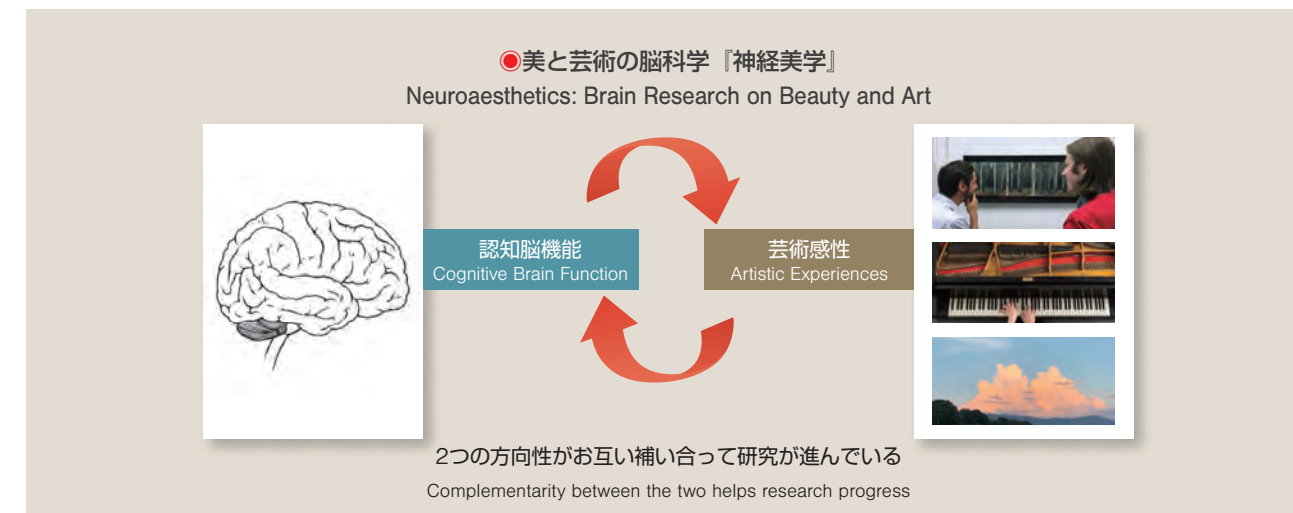
■「美」に共通する脳の反応とは？

——脳の研究は心理学の範疇なのでしょうか。

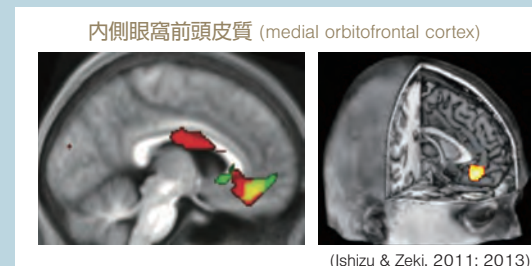
私は心理学者というよりも、認知神経科学者という方がしっくりきます。ただ心理学も神経科学も科学です。心理学は日本ではいわゆる文系の範疇に含まれますが、どちらも実験をして数値で表し、それを他の実験結果と比較して、追試・検討を繰り返すので同じ科学の領域といえます。

——具体的な研究と成果について教えてください。

例えば被験者に絵画や写真を見てもらい、脳波計や機能的MRIを使って脳の反応を見ます。すると、脳の特定の部位が活動していることが分かってきました。それが「内側眼窩前頭皮質」の一部分です。眉間の上辺りに位置する部位で、親指程の大きさですが、ここが絵画、写真、彫像、更には自然風景や建築物、人の顔など、ジャンルの違いを超えてその人が「美しい」と感じるもの



●美の体験には共通する脳反応がある Aesthetic experiences have common brain responses



内側眼窩前頭皮質は眉間の上辺りに位置する／The medial orbitofrontal cortex is located above the area between the eyebrows
(Ishizu & Zeki, 2011; 2013)

に反応を示すことが分かりました。「美とは何か」に対する、一つの答え、共通項を見いだしたわけですね。

満腹になると私たちは快感を覚えますが、内側眼窩前頭皮質はその快感にも反応します。つまり生物の基本的な欲求にも関係する部位といえます。芸術作品を見聞きしても、お腹が膨れるわけでも生理的な快感を得るわけではありません。でも、同部位が反応しているということは、「美」も人間の個体の維持や、更には集団の安定にも貢献している可能性があります。

これまで私は特に目には見えない「美」に関心を寄せてきました。例えば音楽。音にも人は「美しさ」を感じますよね。そんな聴覚美もまた、絵画などの視覚美と共通項があると考え、2011年に調査・実験。25人の被験者に対して、絵画を見せた時と音楽を聞かせた時の脳を、MRIで調べたところ、内側眼窩前頭皮質が共通して活動している事実が認められました。

ちなみに「道徳」や「友情」の心の内の美もそうです。人助けをする姿に心を寄せるといった際にも同部位が、活動を強めるのです。

■ Beauty affects the economy and interpersonal relationships

—— What is your speciality, neuroaesthetics, all about?

Neuroaesthetics is a relatively new field of study that was started in Europe in the early 2000s. It's a branch of cognitive neuroscience that studies how our brain and perception work when we engage in an artistic activity or have an aesthetic experience. It is an interdisciplinary field that attracts people from a wide variety of areas, including psychologists, neuroscientists, humanities scholars, health and human services professionals, artists, and musicians.

—— What we perceive as “beautiful” is different for everyone, right?

That's right. Even so, people have continued to explore the question of what beauty is. It's not just about creating works of art that are appreciated by as many people as possible. Actually, it has a lot to do with the economy. In the United Kingdom, statistics show that businesses related to beauty, such as art and cosmetics, generate more than 3 trillion yen in economic benefits every year. Beauty also affects interpersonal relationships. While we know that beauty affects people, neuroaesthetics attempts to answer the question of what aspects are common to beauty through the study of the brain and perception.

■ What is the common brain response to beauty?

—— Does the study of the brain fall under psychology?

I'm more of a cognitive neuroscientist than a psychologist. But psychology and neuroscience are both sciences. In Japan, psychology falls within the category of the humanities, but both psychology and neuroscience can be categorized as science because they both involve conducting experiments, demonstrating the results quantitatively, comparing them with the results of other experiments, and repeating replications and investigations.

—— What are specific research areas and findings?

In some studies, researchers asked subjects to look at paintings and photographs while using an electroencephalogram or functional MRI to see how their brains would respond. These studies found that a certain part of the brain was activated. It's a region of the medial orbitofrontal cortex. This region is located above the area between the eyebrows and is about the size of your thumb. This part of the brain was found to respond to things people perceive as “beautiful” regardless of whether they are paintings, photographs, statues, natural landscapes, buildings, or human faces. Researchers found something common, an answer to the question of what beauty is.

■研究最前線



歓喜+美 Joy+Beauty 悲哀+美 Sorrow+Beauty 共通 Common point
 (p < 0.05 corr. SVC)

美を感じた時とネガティブな美を感じた時、どちらも内側眼窩前頭皮質が反応している
 The medial orbitofrontal cortex responds both when we experience beauty and when we experience beauty derived from negative emotion

(Ishizu & Zeki, 2011; 2013)

■他人に共感できるようになる「崇高」

—先生が近年注目している研究対象は何でしょうか。
 今二つあって、一つは「ネガティブな美」。「美」には、失恋ソングなど悲しさや苦しさを伴うものがあります。私はミケランジェロの「ピエタ」という作品を見た瞬間に、そのもの悲しさに思わず涙が流れました。そのような「ネガティブながらも美しい」という感性もまた、内側眼窩前頭皮質が関係しているのです。
 もう一つは「崇高」や「畏怖」です。嵐や火山の噴火の情景や写真を見て、圧倒されたり、恐れを感じたりすることはないですか。そういった「恐ろしいけれど美しい」という心理状態や、脳の仕組みを調べています。こちらは内側眼窩前頭皮質ではなく、快の感情に反応する尾状核前部や、恐怖の認知に関係する小脳の一部、記憶に関係する海馬後部などの部位が活動しているのが興味深いところです。
 人は「崇高」を感じると、他者に対する意識や共感性が強くなると報告されています。「崇高」な何か、例えば大木を目前にした被験者と、大木を見ていない被験者の近くで、それぞれ通行人(仕掛け人)がペンを落とした実験によると、大木を見て崇高を感じている被験者ではほとんどがそのペンを拾ってあげたとのことでした。



■AIは「美」でも人間に迫るのか

—「神経美学」は、社会にどう貢献していくのでしょうか。
 「悲哀」や「崇高」といった混合感情は、他者に共感し、人間同士の結びつきを強めます。例えば福祉施設で、神経美学を応用して、介護者と被介護者、または被介護者同士の絆を深められないかと、福祉関係の方々と一緒に模索しています。「崇高」を感じさせる絵画やプロジェクションマッピングを活用するなどして、施設の中で自発的な人と人との結びつきを促そうと考えています。これら神経美学の応用研究は、孤立・孤独を解消し、社会的なウェルビーイングを高めるものと期待しています。
 —現在、AIと連携して研究を進められていると伺いました。
 現在、生成AIが著しい発展をみせ、見た目は人間が生み出す作品と遜色ないようなものを出力できます。そうであるなら、人間の作家の作品がもつ意味とはなんなのでしょう。以前の研究で、子どもの落書きと著名な抽象作家の落書きに見える作品を比べて、好みを答えさせる実験がありました。両方とも見た目は落書きに見えるのに、作家の作品の方が「絵の中に目的や意図を感じる」という評価がされました。同じ見た目でも、やはり意志をもって作られた作品には、その目的や意図を伝える力があるのです。今後は、人間とAIの作品の比較についても実験したいと考えています。AI作品では伝えられないものは何なのか興味があります。知性や人間性は、人間が人間たるゆえん、牙城です。AIにはまだ学習できない人間らしい何かを、「美」から突き止めていきたいです。
 人が追求すべき徳として「真善美」が言われるように、「美」は人類の本質、根幹を成すもの。「人間性」や「人間の幸せ」に科学が分け入っていくための一つの術として、私たちは「美」を追い求めているのです。

◀ 磔刑に処されたイエス・キリストの亡骸を抱く聖母マリアをモチーフとしたミケランジェロ作の彫刻「ピエタ」を鑑賞する被験者の脳機能を計測
 Measuring brain responses when looking at Michelangelo's sculpture "Pieta"

We feel good when we are full, and the medial orbitofrontal cortex responds to that pleasure as well. In other words, it is an area that is related to our basic biological needs. Seeing or listening to works of art doesn't make you feel full or give you physiological pleasure. However, the fact that the medial orbitofrontal cortex is responding suggests that beauty may also contribute to the preservation of individuals and the stability of human populations.

In the past, I have been particularly interested in invisible beauty. Music is one example. People also experience beauty in sound. Assuming that this kind of musical beauty would have something in common with visual beauty such as paintings, I conducted research and experiments in 2011. I used an MRI to see how the brains of 25 subjects would react when they saw paintings as well as when they heard music and found that the medial orbitofrontal cortex was activated in both cases.

This is also the case when it comes to inner beauty, such as "virtue" or "friendship." Your medial orbitofrontal cortex responds strongly when an act of kindness resonates with you.

■“Sublimity” makes us empathize with others

—What are the research subjects that you have been focusing on in recent years?

Currently there are two. One is “negative beauty.” Beauty can be experienced with sadness or bitterness, such as in a heartbreak song. The moment I saw Michelangelo's Pieta, I couldn't help but cry at the sadness of it all. This aesthetic experience of “beauty accompanied by a negative emotion” also relates to the medial orbitofrontal cortex.

Another is “the sublime” and “awe.” Have you ever felt overwhelmed or afraid when viewing scenes or pictures of storms or volcanic eruptions? I'm studying people's state of mind and how their brains respond when they have this kind of “scary but beautiful” experience. It's interesting to note that it's not the medial orbitofrontal cortex that responds to this. It's the anterior part of the caudate nucleus, which responds to pleasant emotions, a part of the cerebellum, which is related to the perception of fear, and the posterior hippocampus, which is involved in memory.

Studies have found that when people have a feeling of the sublime, they become more aware and empathetic toward others. There is an experiment in which a passerby (an experiment confederate) drops a pen near a subject who sees something sublime, such as a magnificent tree, and a subject who doesn't see this tree. Most subjects who had a feeling of the sublime at the sight of the magnificent tree pick up the pen to help the passerby.

■Will AI come close to perceiving beauty the same way humans do?

—How does neuroaesthetics contribute to society?

Mixed emotions, such as “sadness” and “sublimity,” cause empathy with others and strengthen human bonds. For example, I'm working with welfare facility staff on finding ways to build stronger bonds between caregivers and care recipients, or between care recipients, via neuroaesthetics studies. We are trying to facilitate the formation of spontaneous connections between people within the facility by using paintings and projection mapping that instill a sense of the sublime. These applied neuroaesthetic studies are expected to alleviate isolation and loneliness as well as enhance social well-being.

—I heard that you are currently working on research using AI.

There have been remarkable advancements in generative AI today, and it can produce works that look as good as those created by humans. If that's the case, what are we to make of the works of human authors? In a previous study, researchers asked people about their preference between children's doodles and the works of a famous abstract artist that looked like doodles. Even though both look like doodles, more people saw “purpose and intention in the works”



▲ロンドン大学への留学中に訪れたノッティンガムMRIセンターにて
 At MRI Centre in Nottingham, which Professor Ishizu visited while studying at the University of London

done by the artist. Even if they look the same, a work created with intention still has the power to convey its purpose and intent. In the future, I would like to experiment with a comparison of works created by humans and AI. I'm interested in what works created by AI can't convey. Intelligence and humanity are what makes us human. I want to find out through the study of beauty something human that AI cannot learn yet.

They say we should pursue the virtues of “goodness, truth, and beauty,” with “beauty” being the essence and foundation of humanity. Our study of beauty is a scientific exploration of humanity and human well-being.



LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [卒業生インタビュー]

心に秘めていた お笑いへの夢を実現

大好きな「芸」に挑戦しつづける「お笑い芸人」

●お笑い芸人
福田 麻貴 さん — 商学部 2011年卒業 —

テレビで目にしない日はないほど大人気の女性お笑い芸人トリオ「3時のヒロイン」。ボケ担当の2人を相手に、ツッコミを担当しているのが福田さんだ。関西大学在学中に念願のお笑いの世界に飛び込み、さまざまな分野でその多才ぶりを遺憾なく発揮する毎日。ようやく一つひとつの仕事に自然体で向き合えるようになったという現在までの道のりをお聞きした。



3ji no Heroine
MAKI
FUKUDA

●大学在学中に念願のNSCに入学

— 関西大学在学中にNSCに入学したきっかけは何ですか。
NSCへの気持ちはずっとありました。中学生の時に兄から「コンビを組んでNSCに行こう」って誘われてまして。兄はあまり本気じゃなかったらしく、すぐにあきらめていましたが。高校入学時はNSCに入るかダンス部に入るかで迷い、高校卒業後の進路選択では、大学に行くか映像の学校に行くか、それともNSCに行くかで迷い……。その都度、母には反対されていました(笑)

一方で、2年次の半ば頃から、就職を意識していました。希望は広告業界。でも、NSCもあきらめきれず、3年次になる前にNSCにチャレンジして、アカンかったら就職活動を始めようと思っていました。

— 関西大学での経験が今のお仕事に生かされていることはありますか？

私は商学部だったのですが、所属を希望していた演習のクラスに応募する時に、試行錯誤して自分のPR用DVDを作って、選考に合格しました。その時の経験は今の仕事に通じるなど感じます。その後、続く専門演習は、ちょうどNSCの入学と重なってしまったので、あきらめましたが……。

NSCに入学してからは、授業を受けにだけ大学に通った感じなので、大学生らしい学生生活は最初の2年間ぐらいですが、大学では「おもしろい正義」という友人たちとずっと一緒にいて、今もずっと仲良くしています。仕事で関西大学出身のお笑い芸人の方と共演することもあり、今となっては、関西大学への進学も通るべき道だったのかなと感じています。



▲お笑い芸人トリオ「3時のヒロイン」(左から)ゆめっちさん、福田さん、かなでさん

●場面ごとに自身をチューニング

— いろいろなジャンルで活躍されていますが、それぞれの場面でどのように気持ちを切り替えられていますか。

私は子どもの時から、家にいる時、友達にいる時、習い事をしている時とすべて顔が違ったようです。場面ごとに自然と自分が作られていくみたいな感じでした。だから、今も意図的に切り替えてるつもりは全くありませんが、自分の中で仕事ごとに無意識にチューニングしているんでしょうね。時には、ガチガチのお笑いバトルのような番組になると戦闘モードになったり、ニュース番組になると真面目モードになったりとかはありますが、今、この場面に順応しなくちゃという感じですね(笑)

— お仕事で心掛けていることはありますか。

「3時のヒロイン」でテレビに出始めた最初の1、2年は、3人それぞれが個性を積極的に際立たせようと努力していました。やはり、無名の状態から何もせず自然体で売れるというのは難しいし、テレビに出始めた頃、芸能界で売れるにはある程度プロデュースしないとイケないと思っていました。けれど今はむしろ、自然体で自分の魅力を出せるようにしたいという気持ちの方が強くなりましたね。



◀大学の友人たちとバーベキュー(写真右端が福田さん)



ヘアスタイリング中の福田さん。大学ではダンスサークル「Soul Beat Crew」に所属していた▶



▲サークルでの一コマ

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [卒業生インタビュー]

ただ、私はお笑い芸人なので、やはり、お笑いをおろそかにしたくないというお笑いへの忠誠心のようなものをいつも感じています。同様に、芝居の時は、共演する俳優の皆さんの中で、「楽しいな」程度の生半可な気持ちだけで挑んではいけないと心掛けています。自分はまだまだ駆け出しだし、どのジャンルでも専門的なレベルで何も極められてないから、各ジャンルとも少しずつでも深く突き詰めていけたらという気持ちです。

—いろいろなお仕事の中で、特に好きなお仕事はありますか。

芸人が歌や芝居をしたら、「芸人が何をしているの?」と言う方もいらっしゃると思いますが、私は芸人の「芸」ってお笑いだけじゃないと思っています。歌も演技も「芸」の一つ。私は「芸」に関することは何でも好きなんです。

でも、自分のベースがお笑いという意識は1ミリも失っていません。むしろ、お笑い芸人じゃないと思われたら悔しいほど、軸はお笑いにあると思っています。その上で、それ以外のことも、好きだと思えることは何でも挑戦していきたいです。

◎好きも緊張も覚悟もすべてを仕事の糧に

—魅力的な言葉選びはどのように身に付けたのですか。

今、振り返ると、子どもの頃から新しい言葉を覚えては使いたいタイプでした。国語が好きだったので知らない漢字に興味を持ちたり、車窓から見える看板を読んでみたり……。読書も好きで、関大への行き帰りの電車に乗っている30分はいつも本を読んでいた。

実は、言葉で勝負してみようと思っていた時期がありました。私がかつて所属していたアイドルユニット「つぼみ」(2019年「つぼみ大革命」に改名)で活動していた時、作家さんに「めっちゃワードがおもしろいから、お前はワードで行け」って言われたことがあって……。当時アイドルだったのに、お笑い専門劇場Sup



◀昨年「関西大学フェスティバル in 関西」の校友お笑いステージで、かなでさんと一緒にMCを務めた福田さん



一緒に校友お笑いステージを盛り上げた出演者たちと

よしもと(2014年閉館)に引き抜かれそうになったんですが、大阪でお笑い一本でやるのが怖くて、上京しました(笑)。そうしたら、東京で同期の芸人に「女がワードで勝負するな」って言われたんです。ちょっと賢い言葉を使っただけなんですけど、少し恥ずかしくなってしまってやめました。でも、自然に私の言葉が伝わっているのであれば嬉しいです。

—ストレスや緊張を感じられることはありますか。

今は自分自身にとって楽しいことしかしていないので、本当にストレスフリーです。テレビのバラエティ番組でも、ある程度、関係が構築された共演者の方々とお笑いをするのは自分の魅力を出せるチャンスでもあるので楽しさしかありません。

緊張は、ある意味、良いストレスとも言えます。生ぬるいばかりでなく、たまにはそういう緊張にも晒されるべきだと思っています。先輩、特に男性芸人と共演させていただく時はいまだに緊張しますね……。先日、一日中、街を貸し切って大喜利をするというテレビ番組の収録があったのですが、あれは相当な緊張の連続でした(笑)。

—福田さんはとてもエネルギッシュな印象を受けますが、その源は何ですか。

芸人として売れないと人生を巻き返せない状況にあった私は、まさに「退路を断つ」覚悟で芸人の世界に飛び込みましたので、そんな印象を受けられるのかもかもしれません。恐らく、恵まれた境遇にある人が頑張るエネルギーよりも、生きるために必死に頑張っているの方が力強いエネルギーがあると思います。今日を生きることすら必死という人のエネルギーってとても大きいし、そもそも人間にはみな平等にそのエネルギーがあるはずなんです。だから、そのエネルギーをどのように引き出すかが大事なのかなと。挑戦への覚悟だったり、仕事への責任感だったり、仲間や家族に対する愛情だったり……。そういった複合的なものがエネルギーの源なのかもしれません。

◎「3時のヒロイン」のリーダーとして

—相方ゆめっちゃんの休養で何か変化はありましたか。

以前は「3人で団結して何としてでもビッグになりたい!」と頑張っていましたが、相方の1人ゆめっちゃんが体調不良で休養して、必ずしもそこに固執しなくてもいいのかなと思いはじめました。みんな一筋縄ではいかない性格だし(笑)、個々の好きなことも微妙に異なっていますので、今はそれぞれがやりたいことを伸ばせたらいいんじゃないかな。そして、改めて3人で集まった時に、もっと大きな力になればいいなと思っています。

私自身も、以前はそれぞれの生かし方ばかりを考えていましたが、今はいい意味で自分のことしか考えないようにしましたね。相方の休養によって、自分自身のことをもっと考えるべきだったと気付いたので、そういった意味では相方にも自分にもターニングポイントになったのかもかもしれません。

—今後の方向性を教えてください。

「3時のヒロイン」としてテレビに出始めた頃は、芸人として生き残らないといけないという気持ちが強くて。まずはとにかく名前を覚えてもらうために、3人でいろいろな策を講じました。例

歌も演技も「芸」の一つ。
私は「芸」に関することは何でも好きなんです。
でも、自分のベースがお笑いという意識は1ミリも失っていません。
むしろ、お笑い芸人じゃないと思われたら悔しいほど、
軸はお笑いにあると思っています。



えば、賞レースの決勝で披露するネタを決める時に、ある意味インパクト勝負のネタを用意して、優勝を逃したとしても、バズるほど強く印象に残せるようなネタを出して、「あのネタの人だ」と記憶してもらうための策ですね。でも、これは売れるためだけにとった策なので、何か特別な策とかは全然ありません。

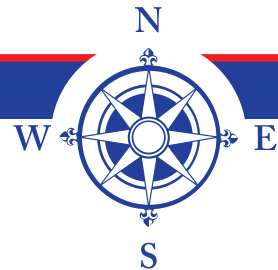
今は「3時のヒロイン」を皆さんに知ってもらえるようになってきたので、今後は一つひとつの仕事丁寧に行っていくことで

—今後の抱負や関大生にメッセージをお願いします。

役に限らず芝居は何でも挑戦したいですし、自分がもともと所属していた「つぼみ」は愛着もあるので、脚本を提供し続けたいです……。お笑いに限らず、いろいろ可能性を試してみたいですね。

今、在学中の皆さんはいろいろ乗り越えて関大生になったと思います。つまり、関西大学には「頑張る器」がある人しかいないはず! その器を武器にこれからも頑張っていきたいと思います!

福田 麻貴—ふくだ まき
■1988年大阪府生まれ。大阪府立住吉高等学校、2011年関西大学商学部卒業。在学時はダンスサークル「Soul Beat Crew」に所属。3年次に吉本総合芸能学院(NSC)大阪女性タレントコース5期生となる。大学卒業後はそのままお笑いの道に進み、2019年「3時のヒロイン」として「女芸人No.1決定戦 THE WJ」で優勝。そのリーダーを務める傍ら、ネタ作り、ツッコミを担当している。バラエティ・ドラマ・CMに加え、俳優、脚本家、エッセイストなど幅広く活躍している。



宮城県と就職支援に関する協定を締結



▲村井宮城県知事(左)と前田学長(右)

8月21日、関西大学と宮城県は「就職支援に関する協定」を締結した。これにより、同県内へのU・I・Jターン就職など、学生の多様化する進路希望に合わせた、就職支援のさらなる充実を図るだけでなく、東日本震災からの復興や防災に関わる人材の育成を目指す。

天神祭・船渡御に奉拝船「関大丸」が4年ぶりに出航



7月25日、天神祭本宮の夜に、大学として唯一関西大学が船渡御に参加し、奉拝船「関大丸」が出航した。「関大丸」の出航は4年ぶり、通算15回目。大学関係者や校友、留学生など約160人が乗船し、落語家の林家染太氏(2000年文学部卒)らが進行役を務めた。応援団による演舞演奏の後は、行き交う船々や橋上、川辺で祭りを楽しむ人々とも「大阪締め」を交わし、約3,000発の奉納花火に酔いしれた。

関西大学博物館が「キッズミュージアム2023」を開催

8月2・3日、関西大学博物館が小学生対象の体験型イベント「キッズミュージアム2023」を千里山キャンパスで開催した。埴輪作りなど歴史や考古学への知的好奇心を刺激する4つのプログラムが実施され、約100組の保護者と小学生たちが、作業を通して楽しそうに話したり写真を撮ったり、充実した時間を過ごした。



▲(上段・左から)オリジナル埴輪を作成/博物館の埴輪を見学(下段・左から)古生物化石に触れる/縄文土器と同じようにタイルを作る/瓦の模様を紙に写し取る拓本体験

拳法部が全国大学選抜選手権団体で男子が優勝、女子が準優勝



トロフィーを掲げる川内主将(左)と丸谷主将(右)

7月2日、日本拳法第36回全国大学選抜選手権大会団体戦が東京・大田区総合体育館で行われ、男子が決勝で昨年王者の明治大学を3-2で取り、13年ぶりに優勝を勝ち取った。女子は決勝で立命館大学に1-2で敗れ、惜しくも日本一には届かなかったものの、表彰を逸した昨年の同大会の雪辱を果たした。

全日本学生なぎなた選手権男子個人の部で入江晃太さんが優勝 女子個人の部で森本あか音さんが準優勝



8月6日、第62回全日本学生なぎなた選手権大会が長野県立武道館で開催され、公開演技個人の部(男子)で入江晃太さん(化学生命工学部3年)が見事、大会3連覇を飾った。また、試合競技個人の部(女子)では、連覇を狙う森本あか音さん(人間健康学部3年)が決勝で惜しくも敗れて、準優勝となった。

全国中学生選抜将棋選手権大会で 中等部・清水慎さんが優勝

8月3・4日、第44回全国中学生選抜将棋選手権大会が山形県天童市で開催され、大阪府代表として出場した清水慎さん(中等部2年)が初優勝を決めた。状況が悪い場面でも押し切られない胆力が持ち味の清水さん。「苦労した局面はあったが、諦めないでやれた」と笑顔を見せ、「奨励会に入り、プロになりたい」と将来の夢を語った。



初優勝した 中等部・清水さん

